

6年生「携帯電話の安全な使い方を考えよう」

～携帯電話のルール作りをとおして～

さいたま市立日進小学校

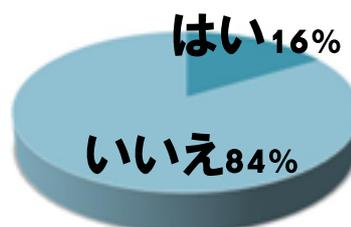
1. ねらい

- 携帯電話の利用には、いろいろな危険が伴うことが分かるようにする
- 携帯電話を安全に利用するルールを考えることができるようにする

2. 授業について

本クラスの児童は、2割弱の児童が、すでに自分で自由に使える携帯電話をもっていた。また、サイトを観てはいけなく、課金制のサービスは利用しないなど、家庭内でのルールが決まっている児童もいた。しかしながら、これらは保護者によって決められたものなので、その意味や必要性については、認識が不十分であるとみられた。

また今後、自分の携帯電話を手にする児童も増えると考えられることから、児童が、自律的に携帯電話を安全に利用する能力を育むことが必要であると考えた。そこで、本時では自分たちでルールを作る活動を通して、安全な携帯電話の利用方法について気がつくとともに、自分の力でよりよい利用方法を考えることができるように取り組んだ。



自分で自由に使える携帯電話をもっていますか

3. 授業実践

	児童の活動	指導上の留意点
はじめ	1. 携帯電話の危険性について知っていることを話し合う。 2. 本時のめあてを確認する。 携帯電話の安全な使い方を考えよう	○児童の実例や知っていることを挙げさせることで、身近な問題としてとらえることができるようにする。
なか	3. 携帯電話の危険性とルールづくりの大切さを知る DVD「ちょっと待って、ケータイ2」の視聴 4. 携帯電話のルールを考える	○ビデオの資料を観ることで、携帯電話の危険性やルール作りの必要性を理解することができるようにする。 ○自分の生活を振り返りながら考えさせることで、現実的で具体的なルールを考えることができるようにする。
おわり	5. 考えたルールを発表する 6. 今日の感想を記入する	○ルール作りを通して、安全な携帯電話の使い方について気がつくことができるようにする。 ○携帯電話の便利さ、楽しさにも触れ、携帯電話は悪いものではなく、安全に使うことが大切であることに気がつくことができるようにする。

4. 成果と今後の課題

授業後の児童の感想からは、「2月のおわりに、ケータイを買ってもらえるけど、うちでもちゃんとルールを決めてしっかり使いたいです」「ケータイは、いい面と悪い面があることが分かった。家族である程度のルールを作ってから使いたいです。」のように、本時を通して携帯電話の危険性や安全に使うことの必要性を理解できた様子うかがえた。まだ、自分の携帯電話を持っている児童が多くなく、その危険性について、自分の問題としてとらえにくいように感じられた。また、携帯電話の利用については、家庭との連携が不可欠であり、今後その点についても計画的に取り入れる必要がある。